



コロナ終息を願う

9月定例会

■ 令和2年度主な事業	2
■ 令和2年度一般会計・特別会計決算・質疑	4
■ 決算賛成討論	5
■ 令和3年度補正予算	6
■ 委員会報告	8
■ 町政を問う 一般質問（5人が質問）	9
■ 玉手箱	12
■ 編集後記	12

事業が行われました。



地域振興券発行事業

658万円



コミュニティ助成事業

250万円



学校ICT環境整備事業

小学校：1,954万円

中学校：879万円



観光施設整備事業(設計業務)

686万円

令和2年度は、こんな



やっぱり基本は
土壌づくりだね

農業振興補助金等交付事業

1,062万円



来庁時は
体温チェックを
してね

感染症対策事業

381万円



リフォームして
きれいになったよ

住宅改修助成事業

451万円

明許分 20万円

事故繰越分 20万円



越山の越山橋も
これで安心

町道管理事業

8,326万円

明許分 960万円



歳入歳出決算を認定

歳入総額38億6,523万4千円
歳出総額36億546万7千円

一般会計決算のうち令和3年度に繰り越す財源を差し引いた額（実質収支）は2億638万3千円の黒字決算となりました。

一般会計

総務費

* 行政情報配信事業

問 「いねばん」を活用できていない人への個別の対応が必要ではないか。

答 今後アンケート調査を実施し、その結果をもとに対応していく。

* 個人番号カード交付事業

問 個人番号カード交付事業で通知カードの保管件数が5件あるが対策は。

答 受取人が住所不在であるので、今後は京都府に相談し対応を考える。

* ふるさと応援事業

問 寄附目的の指定なしの寄附金が640万円あるが積立金が94円となった根拠は。

答 指定なしの寄附金は町長の判断により目的別に振り分けを行う委託手数料を差し引き94円の積み立てとなった。

* 減債基金積み立て

問 減債基金の積み立てが前年度163万円に対して令和2年度は利子相当分が112万円なのに2億7,832万円と高額の積み立てがなされている。意図は。

答 財政調整基金の残高が比較的

多いため減債基金への積立を行った。

民生費

* 子育て支援共通事業

問 保育所のICT化に向けて視察に行っているが具体的にはどうしていくのか。

答 出勤管理や書類のデータ化、情報発信などを考えていたが令和2年度の事業実施は時期尚早と判断し見送った。

教育費

* 学校管理運営費

問 学校管理運営費でコロナ対策として小学校の水道蛇口は自動水栓が来ているのか。

答 電源のあるところは自動水栓、電源の無いところは乾電池式の自動水栓とした。



整備された自動水栓

消防費

* 災害対策費

問 防災備蓄品の処分期限後の取扱いは。

答 今までは防災訓練実施の際に活用していたが、今後の利活用については検討していきたい。



防災倉庫

介護保険

* 生活支援体制整備事業費

問 高齢者居場所づくり補助金の申請が減っているが参加を増やす取り組みをしているのか。

答 地域が主体的に取り組む事業であるので自主性に任せている。

〈全員起立で原案どおり可決〉

決 算 賛 成 討 論



山根朝子

小さな自治体を生かした決算

▼令和2年度は実質収支2億3704万3千円の黒字決算となった。コロナ禍にあっても住民の生活と営業、命と健康を守るために努力していただいた。特別定額給付金や町独自の定額給付金などの迅速な対応は評価できる。デマンドタクシーの実証実験も始まった。地産地消のエネルギー政策に期待する。コロナ禍での災害が起こった場合の避難計画も検討する必要がある。有害鳥獣対策では動物の飛び出しなどもあり、今後も対策を強めてほしい。学校ICT環境整備事業ではタブレット端末の故障時の修理は公費で補償していくことは安心して活用できる。視力の低下や電磁波など健康面の考慮をお願いしたい。特別会計では、コロナ禍でも感染予防に注意し、できる限りの事業を実施されてきた。今後も町民の営業と暮らし、健康を守り、小さい自治体の良さを生かしたまちづくりを期待する。



長谷川貴之

着実な事業ができた決算

▼令和2年度の決算額は、実質収支2億3704万3千円の黒字決算となった。吉本町長をはじめ、職員の方々の効率的で迅速な事務執行による黒字決算は、大いに評価できる。国の政策、交付金、給付金を活用した地域振興券の発行、伊根町定額給付金等、町独自の支援給付事業も迅速な対応であり、大いに評価できる。「いねばん」の整備に伴う防災行政無線設備の撤去、屋外拡声局の整備が完了し、安心して暮らせる町づくりができた。再生可能エネルギー導入可能性調査事業では、調査結果を基に、本町にふさわしい事業展開に繋がることを期待する。学校ICT環境整備事業では、一人一台のタブレット端末とネットワーク整備で、子供たちが、未来に必要な資質や能力を高める環境であることを期待する。今後も、町民のニーズを捉え、各施策、事業の必要性を見極め、限られた財源の重点配分による財政運営をお願いし、賛成討論とする。



松山義宗

次年度に期待する決算

▼実質赤字、連結赤字も平成20年度からな<良好、実質公債費率も7・5%と良好である。また将来負担率も平成22年度からな<、良好である。さらに、経営健全化の意見についても是正すべき指摘も特になしであり極めて良好な決算であり、これを認める。吉本町政はコロナ終息後の伊根町の観光回復と活性化をもたらす新たな事業を企画し、現在進行形にあることは将来の伊根町の発展に寄与するものと大いに期待している。今後においては町民の安全安心に加えコロナ収束後の更なる伊根町産業の活性化に尽力いただきたい。監査においても是正の指摘がない決算であることを鑑み、吉本町長がリーダーとなり若干のリスク覚悟で知恵を絞って大胆な冒険をするぐらいの事業実施を検討いただき町民全体の再生、士気を高めていただくことを期待し、賛成討論とする。

令和3年度 補正予算

会計名	補正前の額	補正額	計
一般会計	30億651万4千円	3,396万円	30億4,047万4千円
国民健康保険特別会計	5億1,632万6千円	330万円	5億1,962万6千円
事業勘定	3億4,039万2千円	165万円	3億4,204万2千円
伊根診療所勘定	1億1,785万5千円	165万円	1億3,435万5千円
本庄診療所勘定	7,414万9千円		7,414万9千円
簡易水道特別会計	1億5,209万4千円	220万円	1億5,429万4千円
下水道事業特別会計	1億3,780万4千円		1億3,780万4千円
財産区特別会計	91万0千円		91万0千円
介護保険特別会計	4億4,046万8千円		4億4,046万8千円
保険事業勘定	4億3,952万2千円		4億3,952万2千円
介護サービス事業勘定	94万6千円		94万6千円
訪問看護事業特別会計	2,658万9千円		2,658万9千円
後期高齢者医療特別会計	4,352万5千円		4,352万5千円
合計	43億2,423万0千円	3,946万円	43億6,369万0千円

一般会計第3回補正予算

歳入歳出予算総額に3,396万円を追加し、30億4,047万4千円とするもの。

【主な内容】

- ・小学校校舎の改修費
- ・庁舎の老朽化が目立ち始めた空調設備の更新のための設計費
- ・移住促進住宅整備事業補助金
- ・町道下地宮之前線の舗装改良費
- ・老朽化した消火栓の更新費用
- ・伝統的建造物修理修景補助金の増額。

問 【農林水産業費・畜産振興事業】調査業務397万4千円の内容は。

答 旧畜産施設の土壌汚染調査費。

問 【教育費・学校管理費】学校ICT環境整備事業の業務委託の内容はGIGAスクールサポーターとのことだが、どのような仕事をされているのか。

答 適切な教材の紹介や、先生の質問・疑問等に答えてもらう。現場でのサポートも行っている。観光施設整備事業で七面山トイレを改修されるがどのように活用するのか。

答 観光振興に活用する事業者を募集し貸し出しをする。火葬場の駐車場を釣り人が使用しているが把握と対策は。把握してないので確認する。

（全員起立で原案どおり可決）



火葬場駐車場



七面山トイレ

国民健康保険特別会計第3回補正予算

事業勘定の歳入歳出予算総額に1億65万円を追加し、3億4,204万2千円とするもの。伊根診療所勘定に1億65万円を追加し、1億343万5千円とするもの。

【主な内容】

・保健センター及び伊根診療所の空調設備の老朽化が懸念されることから設備更新のための設計費。
 〈全員起立で原案どおり可決〉

簡易水道特別会計第1回補正予算

歳入歳出予算総額に220万円を追加し、1億5,429万4千円とするものです。

【提案理由】 国道178号蒲入地内で発生した道路陥没箇所に埋設していた導水管の応急復旧と本復旧に要する経費
 〈全員起立で原案どおり可決〉

条例の一部改正

伊根町手数料徴収条例の一部改正について

【提案理由】 デジタル社会の形成を図るための関係法律の整備に関する法律が公布されたことにより伊根町手数料徴収条例について所要の改正を行うもの。
 〈全員起立で原案どおり可決〉

その他の議案

伊根漁港海岸保全施設整備工事請負契約の締結について

今年度の海岸保全工事の契約締結。工事区間は、西平田地区の一部。
 〈全員起立で原案どおり可決〉

伊根町過疎地域持続的発展市町村計画の策定について

【提案理由】 伊根町過疎地域持続的発展市町村計画（令和3年度～令和7年度）を策定するため

【内容】 過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法に基づく市町村計画を策定するため
 〈全員起立で原案どおり可決〉

教育委員会委員の任命について

【提案理由】 教育委現職の委員1名が令和3年9月30日で任期満了となるため

【内容】 下野 透（しものとおる）氏を教育委員会委員に引き続き任命する
 〈全員賛成で同意〉

9月定例会 質疑発言一覧表

	和 田 義 清	上 辻 亨	長 谷 川 貴 之	中 嶋 章	山 根 朝 子	大 谷 功	松 山 義 宗	佐 戸 仁 志
一般会計		2	1	3	5	4	8	5
国民健康保険特別会計								
簡易水道特別会計		1				1		
下水道事業特別会計								
財産区特別会計								
介護保険特別会計					2			
訪問看護事業特別会計								
後期高齢者医療特別会計								

総務委員会報告

● 9月2日

1 議会報告会の議題について

○議員のなり手不足について

近年、地方議会においても懸念される議員のなり手不足について町民の意見聴取を実施することとした。

○定時制高等学校の跡地利用について

令和5年度を持って統合が決定している定時制高校の跡地検討会の意見等を議会報告会で紹介する。

2 今後の取り組みについて

○丹後半島第一・第二風力発電について

現在計画が進行している2つの風力発電について現時点での計画内容を住民生活課から説明を受ける。

○小学校の耐力度調査について

新耐震基準に達していない町内の2つの小学校の耐力度調査結果について教育委員会から説明を受ける。

産業建設委員会報告

● 9月2日

○タブレットの未起動世帯について調査した。

未起動端末の解消とともに今後のデマンドタクシーとの連携も含め提言に取りまとめるか検討。



議会活性化特別委員会

● 8月17日

○議会報告会反省会

- ・参加者が1名の会場もあったため会場については要検討
- ・進行については要検討
- ・参加議員を少なくして多会場とすることを検討

○次回の開催について

- ・継続開催を全員確認

● 9月2日

○議会報告会について

開催時期：10月末以降

場 所：地区を担当する議員が決定

班 編 成：活性化委員会正副委員長で決定

報告内容：9月議会を取りまとめた議会だよりを中心として説明

開始終了：地区を担当する議員が決定

*新型コロナウイルスの状況により延期の可能性を確認

● 9月17日

次回報告会の内容

- ・決算認定について
- ・議員のなり手不足について
- ・伊根分校の跡地利用について

内容については10月20日以降の広報委員会作成案で調整

あなたの声 議会を変える

議会報告会日程

● 内容

- ・令和2年度決算について
- ・意見交換

● 日時

11月22日(月)
19:00~21:00

● 会場

- ・福祉センター
- ・朝妻コミュニティセンター

● 日時

11月24日(水)
19:00~21:00

● 会場

- ・本庄コミュニティセンター
- ・滝根公民館

町政を問う



5人の議員が一般質問

一般質問の
動画配信を行っています。

乱開発を規制する 「まちづくり条例」の制定を

必要と考えていない

問 今、丹後では、5力所で風力発電所の建設が予定され、あまりにも大規模であることから、低周波による健康被害、騒音、景観破壊、河川の汚濁、土砂災害、クマタカなど希少動物への影響が懸念されている。気候危機の打開の観点から、脱炭素、省エネルギー、再生可能エネルギーを進めることは非常に重

要で、積極的に賛成するところだが、短期間、大規模に導入すると必ず環境破壊をもたらす。これらを回避するためには、環境保全地区と建設可能地区を明確にしたゾーニングや、既存施設、構築物などを活用し、エネルギーの地産地消、地域のエネルギー資源を地域の産業として開発し、地域の雇用や需



大谷 功 議員

要の創出につなげることが重要。そういう点で開発にあたって町民の生活環境を保全するため、専門家も交えた審議会の設置を義務付ける内容も含めて「まちづくり条例」の制定が必要ではないか。

答 健全で恵み豊かな環境の保全、安らぎと潤いのある快適で済みよい環境の創造を図るためには、適正に配慮された持続的発展が可能な開発が求められる。そのために、環境アセスメントの手続きが既に整備されており、これに加えて屋上屋を架すような町独自の条例制定は、必要とは考えていない。よしんば条例を制定したとしても、効力が及ぶのは菅野地区の4基についてのみ。京丹後市や宮津市の開発行為に伊根町が口を出せるものではない。懸念される事項も、我々のテリトリー・菅野の4基で言えば、低周波・騒音は、半径2km内の一番近い家屋が対象、圏内には家は無い。景観破壊・

河川の汚濁、太鼓山で実証済み。土砂災害についても、台風等で丹後半島は多くの道路が崩落したが、太鼓山風力発電が原因のものはない。発電所内でも何も無い。条例制定しなくとも、京都府のアセスに肅々と対応すればよいと思う。



風力発電建設予定地 (太鼓山)

買い物困難者への支援は

買い物支援バスを充実させる

問 Aコープの閉店後、町内で買い物をする店が少なくなり、高齢者買い物支援バスも隣町のスーパーへ行き先を変更した。いわゆる買い物弱者は増加傾向にある。町議会では買い物支援に関するアンケート調査を実施し、多くの貴重な意見をいただいた。車を運転することができなくなった時の不安や

地元のものを買えなくなるなどの不便さ、町内に新たな店舗が必要、コミュニティの場がなくなることへの淋しさなど、多くの声が寄せられた。前述の高齢者買い物支援バスは運転手のほかにアシスタントの方も乗車しており、荷物を車まで運んだり、自宅まで届けたりされていて、利用者には好評である。一人で



山根 朝子 議員

買い物をするのも困難な高齢者が買い物支援バスの利用をせざるを得ない状況であるといえる。買い物がありできないと低栄養になり、健康面にも影響を及ぼすといわれている。自由に買い物ができるということは生活機能の重要な要素であるが、今後ますます増加が予想される買い物困難者に対

してどのような支援を行っていくのか。

答 買い物支援事業は、昨年度の利用者実数は120人程度、延べ利用人数も年間1000人にまで増えている。この事業はなくてはならない事業と実感している。5月以降は利用店を変更し、8ルートから12ルートに増やし、月4日間運行を6日間運行とした。これまで以上に多くの町民の方に利用してもらっている。宅配サービスは伊根町の生協世帯加入率は66・8%で府内第2位とのこと。移動販売も、とくし丸、蒲入水産、個人業者などが来ておられ

高齢者の交流の場としては老人クラブ、サロン、寿茶屋、運動教室、種々の講座など交流の場として機能している。これからの支援としては「買い物支援事業」を種々の高齢者福祉施策と相まって総合的にコーディネートし、利便性の高い、より充実したものにしていく。新たな店舗については調査・分析が必要である。



買い物支援バス

事業承継後の支援は

A 国、府のメニューに従う

問 団塊の世代が75才以上となる2025年は後継者不在による廃業・倒産の危機が予測されている。当町においてもいわゆる事業承継の問題がある。それはまた、伊根町にとって産業や雇用を失い全体としてマイナスだと感じる。

現在、商工会が窓口となり事業を持続的に継続するための支援もある。その内容は相談、手続きに係る専門家の派遣、税の優遇措置、承継後の設備支援などがある。その事業を承継し持続可能な事業とすることは伊根町にとっても有意義なことだと思う。問題は事業を丸々引き継いだにしろ顧客得意先との信頼関係は承継前のようには行かないことも考えられる。承継後の支援環境こそが重要であると私は思う。現在、新規に觀光振興に資する事業であれば伊根町開業支援金交付事

業が月10万円を2年間、交付を受けることができる。今後は事業承継に対する環境整備も必要と私は考えるが、町長の見解を伺う。

答 当町の小売業、飲食業、製造業などでも廃業された事業者は沢山あり、その理由は、後継者不在だけでなく、事業の採算性が理由など、様々な理由によるものであったと思う。町内事業者の事業承継に関する認識としては、「まだ先の話」と捉えている事業者さんが多いようだ。既存事業者へ

の支援は、補助率10分の3、上限300万円の商工觀光業振興補助金で支援をさせて頂いているところで、事業承継に伴う設備投資なども商工觀光業振興補助金の補助対象となるもの。伊根町においても事業承継という行為のみへの支援を行うつもりはない。あくまで、国、府と同じように、事業承継に伴う設備投資、事業拡大を支援するという点は明確にしたい。



松山 義宗 議員

タブレット「いねばん」今後の活用について

A 次のステップはさらにわかりやすい情報配信に努める

問 「いねばん」を配布してから一年以上過ぎたが、まだ利用されていない方が多い方がわからない方「いねばん」を利用してゲームをしている方への対策や電波の不具合などの検証はされているのか。

を精査したところ、全端末の年間通信料が契約通信料を超過することは無かった。電波の不具合の対応については本人からそういった申し出があれば、キャリアの変更をしている。携帯電話の状況を悪い方があれば情報を聞き対応する。

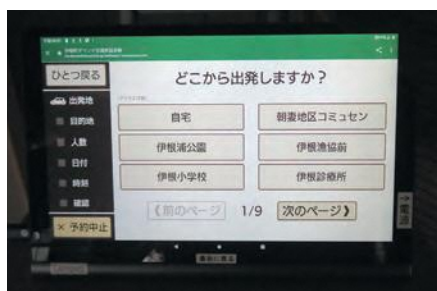
店し食料品の購入に困難な状況もある、また新型コロナウイルス感染拡大により病院等、外出するときなど不安を感じている、今後「いねばん」を利用して買い物が出来たり、通院等されている方にオンライン診療等の取り組みの考えはないか。

答 町内事業者が、Aコープに替わるリアル店舗を開設され「いねばん」からその店舗の商品の注文ができ、家に届くというような取り組みが成立する可能性はある、オンライン診療についても「いねばん」にはズームが組み込んであるので医師が遠隔診療に取り組まれる考えがあれば出来ないことはないが通信費用の増大が大きな課題となる。今後は住民の皆さんへの情報発信を更に分かり易く、そしていち早く伝えるというところに重点を置き「町の

情報は「いねばん」で」と皆さんに思ってもらえるよう丁寧な情報発信に努める。



上 辻 亨 議員



デマンド交通の予約もできるタブレット「いねばん」



Q 今後の対策は

A 町施設の閉鎖は考えていない



佐戸仁志 議員

問 日本全体に蔓延し経済活動を鈍化させているコロナウイルスは様々変異を繰り返して5回目の流行となった。デルタ株ウイルスは感染力が強く、府内でも毎日感染者が増えている。京都北部でも過去にない多くの感染者を出している。伊根

町は希望する町民に2度のワクチン接種を終え町内でも安全であるとの雰囲気がある。観光客も多く来町し屋外ではあるがマスク無しの散策者、釣客も多く見られる。感染者数の減らない近隣の緊急事態宣言地からの来町者に「出歩くな」と

答 伊根町長である私が他市町村の住民に指示が出来るものではない。アピールの為に町施設の閉鎖は考えていない。

問 ブースター効果といわ

れ今以上の免疫力を上げ、2回目から8ヶ月後に打つのがよいといわれる3回目のワクチン接種が早い方で今年度末に必要となる。今後の見通しは。

答 全国的に接種率の低いなか伊根町だけがブースター効果をねらって3回目のワクチンの接種をお願いしても国も京都府も応じてくれる道理はない。国、京都府の方針に従い町民の命と健康を守るため迅速に対応する。



京都府新型コロナウイルス感染症対策認証店



布引の滝 (本庄)



魚いろいろ定置網

伊根小学校5年 向井 長太朗

四時十五分、出港し、定置網の一つ目の漁場に着いた。みんなすぐに網を持って引っぱり、網をまいていた。しんけんががんばっていてもかっこよかった。

「だんだん光るものが見えて来て、」

「ここのだー」と言った。ぼくは、うろこはちよつと汚いものだと思っていた。しかし、よく見ると、青や緑、白にかがやき、とてもきれいだった。そして四・五匹ほど小さい魚が見えて、みんな、「魚がある。魚が…」

「魚がある。魚が…」と言った。いつでも見られるのに、なぜかうれしくなった。もつともつと引き上げていくと、ホウボウやサ

バが見えてきた。もつと引き上げる、とても大きい魚が見えてきた。「大きいのがおるー」

見に行くと、とても大きい魚が、一匹いた。初めて本当に見て、すごかった。他にもカマスやイカ、サバなど、いろんな種類がたくさんいておどろいた。

二つ目の漁場に行き、また同じように引き上げると、何か青い生き物がいた。漁師さんに聞くと、「ムラサキダコという生き物だった。気持ち悪かったけど、おもしろかった。だから、」

「サメ? サメかな?」と言った。みんながおどろいて見てみると、漁師さんがつかまえてわたしにくれた。ほんとにサメで、こわいイメージだったけど、かっこよかった。小さいサメもいてかわいかった。

三つ目の漁場に行った。小さいウツボがとれて、みんな、「かわいい。」「かわいい。」「かわいい。」と言っていた。ちょっと顔はこわい

けど、ぼくもかわいいと思った。三つ目の網では、イカが三十匹以上いて、とてもおいしそうに見えた。

漁協に帰ると、おばちゃんやおじちゃん、

「仕分けせんか?」と聞いてくれた。みんな上手に仕分けしていた。みんなは、ちよつと大変と言っていたけど、仕分けする大切さが分かった。魚の名前やめずらしい魚、定置網についてしっかり知ることができた。またこういう機会があったら、魚をとりたいと思った。



広報編集委員

- 委員長 松山 義宗
- 委員長 山根 朝子
- 委員長 山上 辻亨
- 委員長 中嶋 章

編集後記

第5波コロナ感染拡大の中開催の是非が問われた東京オリパラが無事終了しました。日本勢のメダルラッシュと多くの感動を残した大会でした。全国のコロナワクチン接種率の向上で長く続いた緊急事態宣言が解除され安堵と暗いトネルの先の希望の明かりが見え始めた感じがします。これからも気を緩めず徹底した感染予防に努めたいと思います。

